

仏 法 寺



川之江町古町

天平13年(741年)僧行基が国分寺創立にあたり、川之江で阿弥陀如来坐像を彫り、鷲尾山(城山)山頂に草庵を結

ぶ。その後、寛和2年(986年)比叡山の僧、恵心僧都源信が川之江に来た時に、行基が結んだ草庵を訪れ、堂宇を建立し、仏法寺とする。延元2年(1337年)土肥義昌が鷲尾山山頂に川之江城を築く際に、城中に仏殿を造営し恵心僧都開基の仏像を祀り、武運を祈願した。その後、戦乱の世で荒れ果てていたものを、1627年現在の地に移し、今に至っている。本尊は、行基作と伝えられる阿弥陀如来座像。

境内には、川之江城主河上但馬守の墓所がある。また、父但馬守の死を知り、父の後を追って川之江城より海に身を投じた娘年姫の供養塔が本堂前にある。

また、かつて、本堂右手に「臥龍の松」と呼ばれる立派な松があり、川之江市の記念物に指定されていた。木の高さは7~8m、南北の長さは20mにもおよんでいたが、残念ながら枯れてしまった。